

2020 年度 第 30 回秋季シンポジウム

多文化共生の場の多様性－多文化共生を再考する－

2020 年度秋季シンポジウムは、オンラインによるライブ配信での開催となりましたが、おかげ様をもちまして、たくさんの方々にご参加いただき、盛況のうちに幕を閉じることができました。ご協力いただきました皆さまには、心より感謝申し上げます。

「多文化共生」という言葉は、外国人をはじめ多様な方々に対して、主に支援をする側によって使われていることが少なくない。他方で、近年そうした多様な市民を、まちづくりのなかで積極的に担い手として、そして仲間として期待するように変わっている。この企画では多文化共生の変化や多様性を、場という視点から再考してみたい。

「多文化共生」に初期からリードしてきた田村太郎氏は、まちづくりの担い手としての外国人の役割も伝えている。さらに「支援する」「される」の時代ではなく、誰もが当事者という。講演では田村氏は、阪神大震災以降の「多文化共生」の変遷を語る。「多文化共生」へのアプローチの一つとして、まちづくりや都市計画から研究・実践に取り組むのが山近資成氏（新宿区役所）であり、「多文化共生」の場を語る。山近氏は「多国籍・多文化共住」という考え方を提案している。教育や福祉から一歩ひろげ、外国人と共に地域づくりを行うような展開が期待されている。そうした多文化共生の場の可能性のひとつとして考えられるのが、日本各地に形成されている地域日本語教室ではないだろうか。

三宅正弘氏からは「こくさいひろば芦屋」等の地域教室を事例にその可能性を報告する。ともに学び、ともに取り組む場づくりである。多文化共生への取り組みは多様である。

次第

13:00

受付開始

13:30

開 会

総合司会：鎌田誠史（生活美学研究所員）

開会挨拶：森田雅子（生活美学研究所長）

< 多文化共生の場の多様性－多文化共生を再考する－ >

13:40

講演 1

「多文化共生のこれまでとこれから」

田村 太郎（一般財団法人ダイバーシティ研究所代表理事）

14:20

講演 2

「多文化共生の場の多様性～多国籍・多文化が共存・共住する都市空間を捉え直す～」

山近 資成（新宿区役所職員、早稲田大学大学院創造理工学研究科博士過程）

15:00

講演 3

「多文化共生の現場から」

三宅 正弘（生活美学研究所所員）

15:40

休 憩

15 : 55

パネルディスカッション

登壇者：

田村 太郎氏（前掲）

山近 資成氏（前掲）

コーディネーター 三宅 正弘

進 行：

鎌田誠史（前掲）

17:15

閉 会

お問合せ先

武庫川女子大学生生活美学研究所

T E L : 0798-67-1291(受付時間 : 祝日を除く月～金 10:00-16:00)

MAIL : seibiken@mukogawa-u.ac.jp

記

日時

2020 年 12 月 5 日（土） 13：30～17:15 （受付開始 13：00）

開催形式

オンライン会議システム Zoom

定員

280 名（要申込・先着順・参加費無料）

※定員に達し次第、締め切らせて頂きます。

申し込み方法

申込専用 URL にアクセスし、必要事項をご記入・ご送信ください。

自動返信メールにて、当日参加用の URL が案内されます。

<https://zoom.us/meeting/register/tJYtduihpj8pHtdXupQba12GPkREOykaA8Vo>

※zoom の設定上、自動返信メールは敬称略となりますことをご了承ください。

申込締切

11 月 27 日（金）



パネルディスカッションの様子





田村太郎氏 講演「多文化共生のこれまでとこれから」



山近資成氏 講演「多文化共生の場の多様性」



三宅正弘氏 講演「多文化共生の現場から」



司会：鎌田誠史(生活美学研究所員)